

R7 与那原東小学校 教育DX(デジタル・トランスフォーメーション)早見表

教育DXとは…「学校がデジタル技術を活用して、カリキュラムや学習の在り方を革新するとともに、保護者や地域との関わり方や教職員の業務、組織、プロセス、学校文化を革新し、時代に対応した教育を確立すること」
→子ども、保護者(地域)、教職員の3つの視点で**誰もが幸せに(Well-Being)**

学校の取組:子ども、保護者(地域)、教職員それぞれが、ICTの「普段使い」に取り組むことで、効果的な教育活動の推進を図る。

子ども→個別最適な学び、協働的な学びの推進(タブレット端末の効果的な活用)。

保護者(地域)→LINEでの欠席届の送信や学校ホームページを活用して、学校からの情報を受信。

教職員→グループウェア等を活用した校務DXの推進による働き方改革の実現。

※I(いつでも)C(ちょっと)T(トーク)の意識で、気軽に聞き合いながら全員体制で取り組むことが大事です！



子ども:日常的な授業内でのタブレット端末の積極的な活用

○低学年(1、2年生)…基本操作の習得

・タブレットの ON/OFF ・カメラ機能 ・文字入力(手書き、ひらがな、音声) ・キーボード入力の基本(ホームポジション)

・ロイロノートの活用 ・Google アプリの基本的操作の習得(Google Classroom や Meet、ドライブ)

○中学年(3、4年生)…キーボード入力、情報収集、協働ツールの活用、プレゼン能力の育成

・ローマ字入力 ・学習支援アプリや Google アプリの操作の習得(Google スライドなど)

・ロイロノートの活用

○高学年(5、6年生)…情報を収集、整理・分析し、課題解決へ活用するなどの総合的な力の育成

・学習支援アプリや Google アプリを活用した主体的な学びの充実

・ロイロノートの活用

※ 重点事項 ※

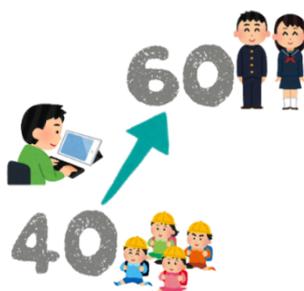
「キーボード入力の強化」と「タブレットドリルの活用」

令和8年度までに目指す1分間当たりの入力文字数は、小学校で「40 字」、中学校では「60 字」

各学年の1分間での入力文字数中央値

(R6 12月町校長教頭連絡会資料参考)

学年	入力文字数(字/m)
1年	10.5
2年	16
3年	23
4年	32
5年	50
6年	62



「タブドリLIVE!(東京書籍)」の活用

・端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実
(授業と連動した家庭学習)

・“個別最適な学びと協働的な学び”へ

つなぐICTの活用



保護者(地域):確実な情報受信、一部ペーパーレス化

子どもから学校の「お便りが届かない…」 「聞いてないよ…」の解消→デジタル受信、HP活用

欠席・遅刻連絡フォームの活用率の向上→町 LINE の活用



教職員:情報集約、共有、ペーパーレス化

グループウェア(ミライム)の活用→出退勤入力、スケジュール(週報、行事)、各設備使用状況、職員動静表入力

Google Classroom の活用→情報共有、共同編集

「ここを見ればすべてのことがいつでもわかる」の実現へ(業務の効率化)

与那原東小学校ホームページにも記載しています。ご確認ください。

